時　報

第26卷第3號　昭和15年3月

岡田港の竣功

東京府は昭和8年度着工以來足掛け7ヶ年の久しきに亙り伊豆大島岡田村地先の港灣工事を施行中であつたが客年11月末其の竣功を見るに至つたので去る1月28日の吉日を卜し各官廳關係者,府會議員 地元關係者等約500名を招ぎ完成埋立地に於て竣功の式典をいとも嚴肅に且つ盛大に擧行した。

此の日東京方面よりの參列者200餘名は特に東京灣汽船會社の厚意に依り27日午後10時芝浦岸壁解纜の同社御自慢の最優秀船橘丸（2400噸）に一般船客1000餘名と共に乘船,一路大島目ざして出發した。

途中相模灘に於ては西風强く，多少の風浪はあつたが比較的平安なる航海を續け翌28日午前4時には豫定通り岡田港に入港した。

本港修築前は陸岸遙か遠く投錨し不便なる艀扱に依つたので1400餘名の乘客の下船には數時間を要したのであるが此の日は流石の亙船も新設防波堤先端附近に船首を置き艫を180度旋回して新裝成れる岸壁に見事横付けされ，僅か2,30分を要せずして上陸し今更ながら港灣施設の有難さを沁み沁み痛感しながら一同豫め用意されたる自動車にて直ちに觀光ホテルに入り朝食を攝り暫し小憩の後,三原山,泉津動物公園の2班に分れ夫々觀光視察に出發した。

生憎西風强く如何に常春の大島とは云へ身を切る樣な寒さではあつたが視察を終へたる來賓は素より地元參列者も定刻前より式場に陸續參集し式は豫定通り午前11時より次の通り始められた。

1. 參列者着席
1. 祭員　着席
1. 祭　　事
   - 修　　祓　一同起立
   - 降　　神　〃
   - 獻　　饌
   - 齊主祝詞奏上　〃
   - 玉串奉奠
   - 昇　　神
   - 撤　　饌
1. 祭員退席
1. 開會の辭
1. 宮城遙拜
1. 默　　禱（戰歿將士慰靈並出征將士武運長久祈願）
1. 知事式辭（吉岡土木部長代）
1. 工事報告（大岡河港課長）
1. 來賓祝詞
   - 內務大臣(高橋港灣課長代)，府會議長，港灣協會長，大島支廳長，町村會長，東京灣汽船會社々長，祝賀協賛會長
1. 工事殉職者感謝狀授與

等あつて芽出度式を終了後一同別席の宴會場に臨み感喜の裡に萬歲を三唱して豫定の行事を滯りなく完了した。

抑も本港修築事業は當初豫算205350圓を以て昭和8,9年の2ヶ年繼續事業として完成する豫定の下に事業に着手したのであるが，自然の灣形に比較的惠まれない島嶼の外洋に於ける工事であつた關係上施工途上に於て數度の災害を蒙るに至つた。

就中昭和9年9月21日に遭遇せる未曾有の大災害の如きは竣成せる物揚場及埋立工事並に80餘米の防波堤の大半を破壞し。材料倉庫,起重機,其他工事用の地上假設物の總てを流失し去つた。

其處で當初計畫を愼重再檢討の結果所期の計畫を一般に增强するに至つたので更に豫算167000圓を追加し之を11,12年度の繼續事業となし。從來の請負工事を廢棄して之を本府直轄施行に更へ，一擧之が事業の完成に邁進したのである。

本港今回の竣功は工事直接擔當者の勞苦は云はずもがな，工事關係者一同の不撓の努力の結晶であるあると稱し得よう。

今修築工事の極く大要を記述すれば次の如くである。

卽ち本港の東側から北西の方向に突出せる暗礁を利用し延長133.0m の繫船岸壁兼用の防波堤を築造し，以て最多風向，最强風向，なる東北の風浪を遮斷し，抱擁される約1平方粁の水面の靜穩を期すると共に港內には長13.5m 及12.0m の物揚場2ヶ處を設置して50噸級以下の小型船舶の接岸荷役に便せしめた。

又港內一部の淺渫並に除岩工事を行ひ以つて港內を整理し，3000噸級船舶の接岸並に碇泊を可能ならしむる外防波堤の頭部には，航路標識を設置して出入船

舶の通航並に碇繫の安全を期した。

更に防波堤基部附近延長 151.2 m に亙り護岸工事を行ひ背後に 4 570 m² の埋立を爲し之を陸上設備用地に充當した（工事寫眞欄參照）。 （大岡禮三）

靜岡市の大火と鐵道の被害概況

1 月 15 日午後零時半頃靜岡市の西北新宿町から發火した火災は，折柄風速拾數米の西北風に乘つて燃え擴がり飛火した火は數ヶ所から更に發火し，乾燥した建物を燒拂ひつゝ延燒時間實に 13 時間餘に及び漸く翌 16 日午後 1 時 30 分頃に至り鎭火したのである。

此の火災の爲鐵道に於ても線路は枕木を燒かれ軌條は燒損し驛機關庫を初め構內に在つた運輸保線兩事務所，保線區其他施業施設及官舍等の建物は一朝にして全滅し，遂に國鐵幹線たる東海道本線は下關行 9 列車上り特急 4 列車を最後として不通となつたのである。

本線の開通は一刻も猶豫出來ぬので，出火と同時に名古屋鐵道局からは各幹部出動し，用宗に本部を置き火災鎭まると共に靜岡驛本屋に移り，一方隣接保線區或は甲府名古屋保線事務所及東鐵局から線路工手，建築工手其他應援約 1 000 名が出動，又名古屋より應急資材醫料品食料等を積み醫師看護婦等を乘せたる救援列車を仕立て，東鐵からも應急用軌條電氣用材を發送する等各方面の努力の結果，早くも翌 16 日には用宗草薙間を通言閉塞として先づ上下一番線を午前 8 時 45 分に，上下本線を午後零時 45 分に開通せしめたのである。

旅客の取扱は同日午後 2 時より開始した，斯くて順次復舊せしめ 23 日頃迄には跨線橋修復其他手荷物等の應急設備を完了，更に貨物取扱も 25 日頃迄には出來る模樣となつた。

又廳舍其他は兩事務所及各詰所を一個所に集合し 25 日頃迄に假建物の竣功をなし，業務を執る事となり取敢へず驛本屋にて執務し，又それと共に罹災職員の住宅問題等も計畫された。

次に被害の程度は，線路被害は上り場內信號機附近から東京寄り乘降場昇掛附近迄及機關庫貨物上屋附近が主で殊に跨線橋附近貨物上屋附近の線路被害が甚大である。又下り方面の線路は荷物等を搬出された爲相當の被害を蒙つた。聯動關係も西部信號所燒失しポイント等も 20 組位燒損を受けた。

建物は構內所在の全部燒失と言ふも差支い無い程燃え盡し，其の燒失坪數 22 000 平方米以上に達して居る。驛關係 9 700 平米，聽舍關係 2 700 平米，機關庫其他 3 500 平米，電力區保線區其他區所 2 500 平米，官舍 54 戶其他治療所等で燒殘つたものは僅かに 1 300 平米位で其の主なるものは東部信號所，踏切番舍，中部リバー上家，外倉庫等である。

然るに驛本屋は昭和 10 年 10 月に現在の耐火性建物に改築せる爲，今回の猛火にも一部燒損せるも被害

圖-1. 燒殘りたる靜岡驛前景

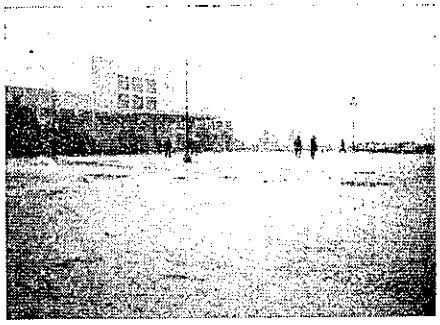


圖-2. ホーム上屋燒失殘骸

圖-3. 火災を受けた西部信號扱所聯動部

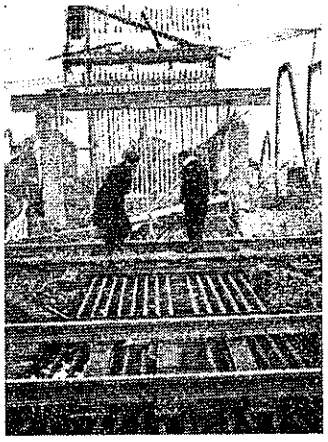


圖-4. 火災による線路の被害及跨線橋の遠望

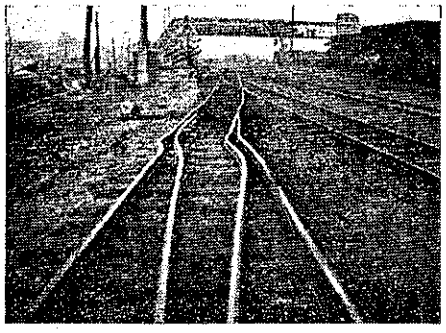


圖-5. 跨線橋の燒跡

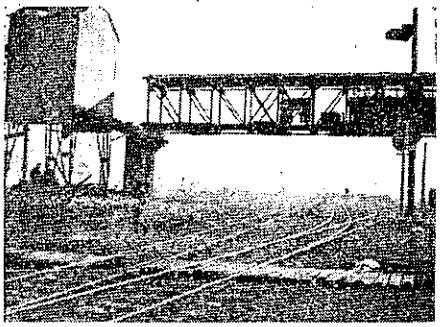
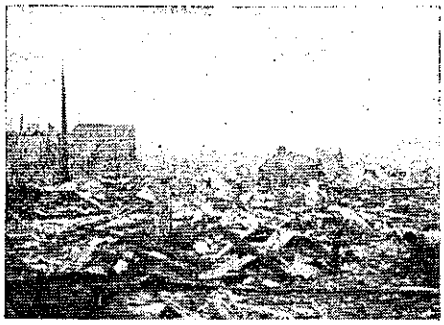


圖-6. 構內火災の跡



比較的僅少に終り，爲に應急に準備或ひは被害取扱に間に合つた事は不幸中の幸である。

電氣關係は構內の電柱が殆んど燒失電線も大なる損害を蒙つたのである。

車輛は機關庫燒失にも不拘ず，機關車は早くも清水方面に避難し火災を免れ，構內に在つた車輛約 10 輛が燒損を受けたのである。

事務所其他の避難は，市中の火勢猛烈となつたので各關係に於て重要書類其他鐵道旗等の搬出用意をなし置きたるに，愈〻危險となつたので貨車或ひは自動車等に積込み草薙其他各〻安全な方面に移したのである。

今回の火災に依る職員及家族の罹災者は約 240 名位で官舍居住 50 名，自宅及借家居住 120 名，其他 70 名程で職員の死傷關係の無かつたことは幸であつた。

（吉田 清）

鐵道省熔接講習會

鐵道省工務關係當局にては近年益々熔接技術の進歩發達に伴ひ其の重要性を加へつゝあるに鑑み，昭和 11 年以降每年 1 回熔接技術に關する講習會を開催し何れも多大の效果を擧げつゝあるが，本年は第 4 回の講習會として本省にて 2 月 5 日から同 10 日迄 6 日間開催せられた。

本講習會は主として鐵道省大臣官房研究所並に工務建設兩局協同主催のもとに，從來より省內熔接工事從事員に對し，熔接工事監督上必要なる學理並に技能を習得せしめ工事の萬全を期すると共に，他面熔接概念の普及を計る目的にて工事該當局，工事々務所のみならず，廣く地方技術職員を聽講せしめるものにして，熔接に關する橋梁一般，電弧熔接の原理，熔接補强，熔接材料及試驗，熔接機，熔接工の檢定，設計監督檢査，瓦斯熔接，軌條及分岐器の熔接修理，金屬材料等に關する講習をなすのである。

今回は會期 6 日間中後半午後を見學及實習に當て，連日午前午後に亙り講習が續けられた。實習は濱松町の鐵道省大臣官房研究所實驗室にて完備せる實驗設備のもとに，夫々の擔當者指導のもとに行はれ，又見學は總武線兩國市川間高架橋工事及宮地鐵工所で何れも實地に就き詳細な見學をなし得たことは，本講習と相俟つて多大の成果を修め得た。

尙今回の講習科目の內容及講師は次の如くである。

科目	講師		
挨拶	建設局線路課長代	技師	佐藤周一郎
講話	官房研究所第四科長	技師	沼田政矩
塗料及塗裝	〃 第一科	技手	常山源太郎
熔接概論(理論)	〃 第二科	技師	柴田晴彥
鐵鋼の熱影響	〃 〃	〃	石田 求
熔接材料(熔接棒)	〃 〃	技手	鯉淵正夫
熔接施工法(歪內力)	〃 〃	〃	中根金作
熔接概論(種類,得失)	〃 第四科	技師	大久保一郎
熔接工(選定,規定)	〃 〃	〃	〃
熔接施工法(監督,應用)	〃 〃	〃	〃
橋梁一般	〃 〃	〃	次永和夫
熔接補强法	〃 〃	技手	大津 寬
同	〃 〃	〃	宮崎雪彌

熔接機取扱法	工務局	技師 木原勝一
施行豫算	〃	技手 遠藤義久
挨拶	〃	土木課長代技師 淺井政治
		(鹽谷勝男)

都市計畫關係決定事項（1 月分）

1. 市街地建築物法適用： 和歌山縣伊都郡高野口町，同郡應其村，東牟婁郡勝浦町，同郡那智町の 1 部（何れも法施行規則第 149 條の 2 の規定に依り指定す）東京都市計畫住居專用地區指定（田園調布住居專用地區 147.17 ha 法 2 條の 2 の規定により）

2. 都市計畫區域： 福岡縣苅田都市計畫區域（京都郡苅田町，同郡小波瀬村の區域）

3. 都市計畫の決定： 街路 京都府舞鶴都市計畫街路（26 線，延長 38.534 km，事業費概算 9 728 500 圓）東京都市計畫蒲田區道路（68 線，延長 87.61 km，工費概算 44 099 170 圓）

區劃整理 山口縣周南都市計畫區劃整理（整理面積 1044.63 ha）同縣德山都市計畫區劃整理（整理面積 5.87 ha）

4. 都市計畫事業の決定： 街路 富山縣高岡都市計畫街路事業（II, 2, 4 號線，延長 1.5 km，事業費 103 700 圓，昭和 14, 15 年度新湊町長執行）德島都市計畫街路事業（II, 3, 29 號線延長 0.2035 km，事業費 107 255 圓 昭和 14 年度市長執行，I, 小, 11 號線延長 0.8908 km. 事業費 27 200 圓 昭和 14, 15 年度市長執行）三重縣四日市都市計畫街路事業（II, 1, 1 號線，延長 0.976 km，事業費 748 500 圓，昭和 14～16 年度市長執行. 京都府舞鶴都市計畫街路事業（II, 1, 1 號線の 1 部，延長 1.28 km 事業費 58 140 圓，昭和 14 年度市長執行）東京都市計畫街路事業（山の手線 1 號外 21 線，延長 24.972 km，事業費 10 354 023 圓，昭和 14～17 年度市長執行）和歌山都市計畫街路事業（I, 3, 6 號線，延長 0.8569 km，事業費 266 500 圓，昭和 14～16 年度市長執行，II, 1, 7 號線，延長 0.5516 km，事業費 182.325 圓，I, 3, 5 號線，延長 0 259 km 事業費 295 675 圓 何れも昭和 14～16 年度市長執行） 公園 富山都市計畫公園決定及同事業（富山公園 10.35 ha の內 6.1 ha，呉羽公園 103.3 ha の內 3.85 ha 何れも昭和 14～18 年度市長執行）

5. 區劃整理組合の認可： 京都々市計畫區域內京都吉祥院西地區（面積 80.98 ha，整理費 365 793 圓）兵庫縣神戸市荒田町 3 丁目（面積 1.75 ha，整理費 23 000 圓）尼崎市北難波町西部（面積 38.75 ha，整理費 520 000 圓）廣都市計畫區域內日鐵京見（面積 10.55 ha，整理費 239 000 圓）千葉縣松戸町立身臺（面積 5.94 ha，整理費 7 200 圓）名古屋市東道德（面積 24.07 ha，整理費 345 000 圓）靜岡縣清水市入江（面積 8.02 ha，整理費 17 300 圓）小倉市西北部第 1（面積 26.88 ha，整理費 124 300 圓）小倉市西北部第 3（面積 75.12 ha，整理費 267 000 圓）小倉市三荻野（面積 120.99 ha，整理費 690 000 圓）岐阜縣下呂溫泉（面積 33.0 ha，整理費 39 000 圓）福井縣敦賀第 1（面積 16.63 ha，整理費 34.476 圓） 岡山縣日比都市計畫區域玉第 2（面積 5.11 ha，整理費 25 500 圓） (廣瀨可一)